

東海農政局管内の選定地区の概要

令和7年度「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第12回選定）
位置図



青色は、全国選定地区
赤色は、東海農政局選定地区

しんと
「神都の祈り」産学官連携日本酒プロジェクト（三重県多気郡明和町）

— 一滴に、神の恵みと若人の祈りを。神都の地から、未来を醸す物語。 —



学生が自然の恵みに感謝し祈り捧げる祭祀



大人も子どもも楽しめる酒米・日本酒づくり体験

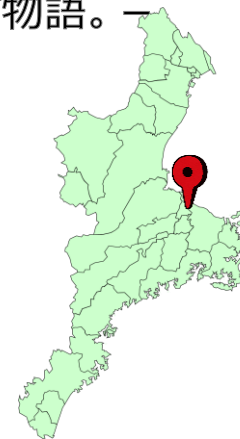


海外の日本酒品評会にて毎年2銘柄とも受賞

6次産業化

学生・若者の活躍

関係人口の創出



概要

- 平成27年に未来を担う人材育成と祈りと稲作が一体となった農文化の継承を目的に産学官連携の本プロジェクトが発足。
- 皇學館大学の学生による「祈りを宿した日本酒造り」を通じ、稲作・神事・酒造りの三位一体の農文化を継承し、未来の担い手を育む持続可能な地域共創・活性化モデルを構築。
- コロナ禍を機に海外の日本酒品評会へ出品。その評価をもとに海外向け販売体制とインバウンド受入れ体制を構築。

成果

- これまでに160名以上の学生が参加し、多くが卒業後も町職員や起業家として残り、プロジェクト運営の中核を担っている。
- 一般参加者による一年を通じた日本酒造り体験でファンコミュニティが自律的に拡大し、関係人口と持続的な経済効果に貢献。
- 海外の日本酒品評会で毎年受賞（令和6年の受賞数8）。

全国選定

優秀賞

コミュニティ・地産地消部門

あま
海女振興協議会

(三重県鳥羽市・志摩市)



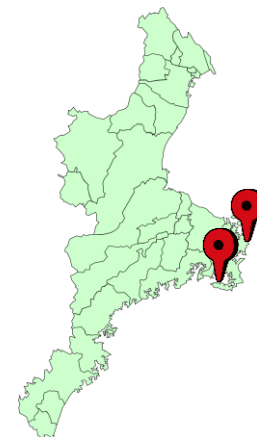
全国海女サミット2024

— 海女さんはすごい —

水産業

伝統の継承

女性の活躍



海女漁

概要

- 海女の数全国一の鳥羽志摩地域で、関係団体と連携し、国内外の認定制度を活用して、海女漁業・海女文化の価値づけに取り組む。
- 平成21年度から全国海女サミットを開催し、資源や漁場の変化など諸課題の情報交換により海女さんのつながりの場を創出。
- 海女さんの漁獲物を加工し「海女もん」としてブランド化。
- 「里海を創る海女の会」を設立し、海女さんが直面する課題の解決に向けた研修会や勉強会を定期的に開催。

成果

- 海女に関連した、国の重要無形民俗文化財、日本農業遺産、日本遺産の指定・認定を受ける。
- 14回目となる令和6年度の全国海女サミットには56名の海女さんが参加。海女もんの令和6年度取扱額は369万円。
- 令和6年の能登半島地震で被災した輪島市の海女さんと、全国海女サミット等で培った交流を基に支援活動へ発展。



イベント（東京）でPR

株式会社プロジェクト・ラボ

(三重県伊賀市)

－「酒じん」で田舎から世界へ！－



酒じんの原料になるコシヒカリの田植え



地域の米を使った日本酒からジンを製造



2022ロンドンスピリッツ
コンペティション
銀賞(味:金賞)



グローバル
ジンマスターズ2022
金賞

ジンの本場イギリスでの品評会で賞獲得

6次産業化

輸出

関係人口の創出



概要

- 地域活性化に向け令和3年に会社を設立し、酒蔵、地域農家との連携で、田舎の身近な資源を使った地域オリジナル商品として、米から醸造した日本酒を蒸留し作るジン（酒じん）を開発。
- 経済的自立を図るため、令和4年にイギリスのコンペ出品で受賞した成果を生かし、国内外の商談会へ参加して販路を拡大。
- 令和6年に（一社）日本・酒じん協会を設立し、企業との連携や世界に向けた情報発信を強化。
- 酒じんによる田舎の活性化の取組を拡大するため、三重県下及び近隣の団体への説明会等を実施。

成果

- 令和6年度の酒じん生産4,600本、売上610万円、関係地元農家は18件に増加し、企業からのオリジナル酒じんも受注。
- 他の地域でも酒じんプロジェクトの導入検討が進展。酒じん協会へ加盟する酒蔵も増加。

ごぜんまい
徳川将軍家御膳米生産組合

(岐阜県安八郡輪之内町)

ー 輪中から発信する輪之内町のブランド米ー



町内の子どもたちが参加した御田植え祭

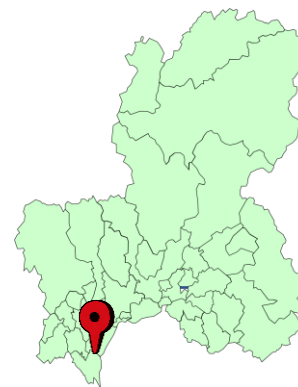


徳川将軍家御膳米・御膳酒で商談会参加



一般公募による試食会を開催

- 農業
- 地産地消
- 伝統の継承



概要

- 輪之内町産米「ハツシモ」のブランド確立に向け、徳川将軍家台所に米を納めてきた史実を基に、環境に配慮し栽培方法にこだわった米を「徳川将軍家御膳米」として全国へ発信。
- 御田植え祭、収穫祭等での米作り体験や小学校の授業で地域の米作りの伝統を継承。
- 御膳米を使ったポン菓子や町内産黒大豆との炊き込みご飯の商品化で用途を拡大、学校給食への提供で食育を推進。
- 農業体験希望者を受け入れて指導し、定住・移住を促進。

成果

- 良質な地下水の活用、有機物等を活用した土づくり、農薬・化学肥料30%以上削減の栽培方法を守りつつ組合員一丸で生産増に努め、令和6年度の徳川将軍家御膳米栽培面積は95haに拡大。
- 「御膳米黒豆ごはん」が平成29年にグルメ&ダイニングスタイルショーのフード部門で受賞。

ほりべ たかのり
堀部 貴紀

(愛知県春日井市)



春日井市とイベント開催&ブース出展



外来種サボテンの駆除&有効活用 (室戸市)



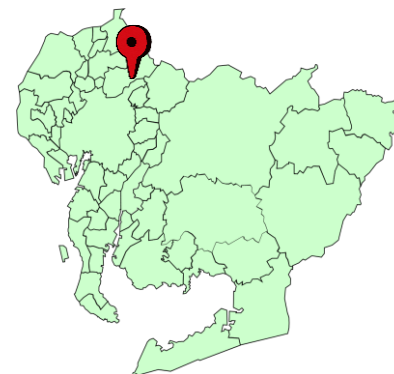
サボテンを活用したカンボジア地雷原復興事業

—サボテンが地域と地球を救う！—

農業

6次産業化

環境保全 (農林水産業・食品産業)



概要

- サボテン栽培が盛んな春日井市の中部大学で、サボテンのCO₂吸収能力や食料・飼料への活用可能性を研究するとともに、令和3年に市、農業者、企業等16団体が連携したプラットフォームを設立し、会員間の交流を通じたサボテンの利活用を推進。
- 各地で企業等と連携しサボテンを活用した6次産業化等を推進。
- カンボジア地雷原跡地での食用サボテン栽培プロジェクト等の国際活動に専門家として参画。
- 春日井市のイベントでの講演や出展、様々なメディア・著作を通じサボテンの魅力や可能性を発信。

成果

- 設立したプラットフォームにより、サボテン活用に向けた会員間の商談、業務提携、新規プロジェクト立案が進展。
- 多くの人・組織と連携することでサボテンに新たな価値を創出。令和4年には市が「春日井サボテン振興アドバイザー」に任命。